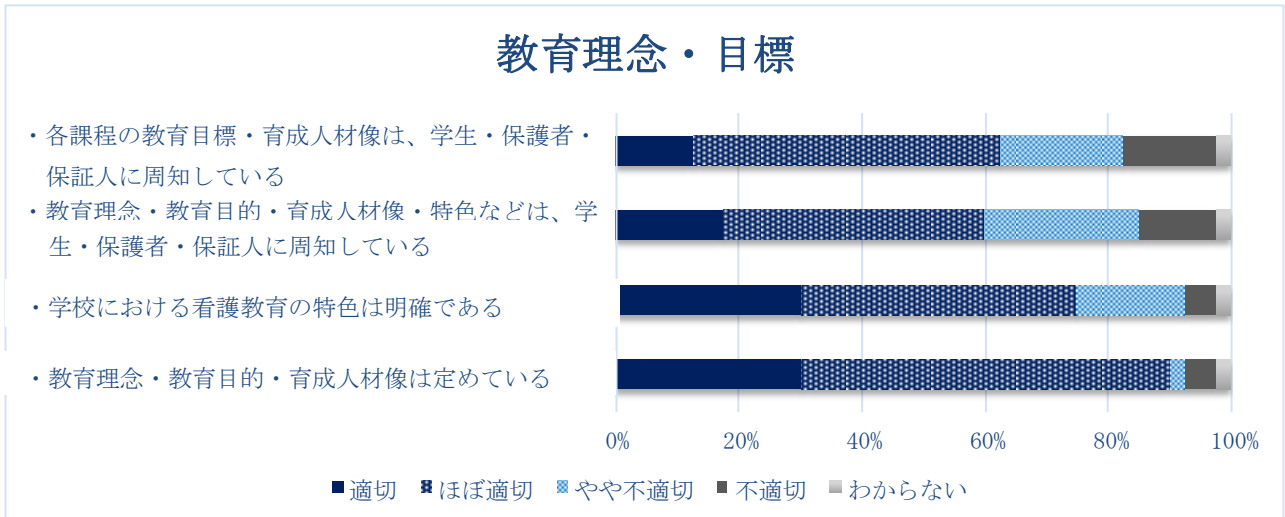


京都府医師会看護専門学校
平成27年度 自己点検・自己評価

I. 教育理念・教育目標・人材育成

(1) 教育理念・目標

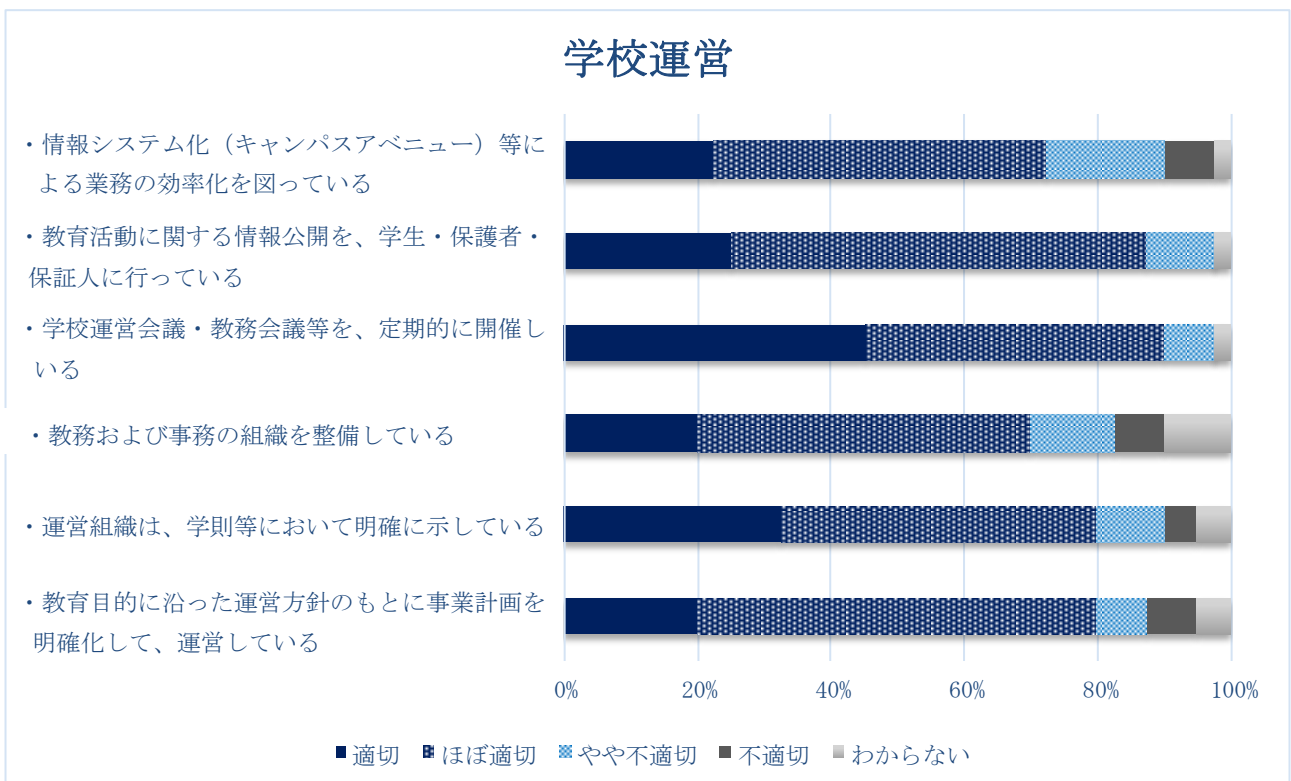


自己評価	外部評価
<p>『教育理念・教育目的・育成人材像は定めている』については「適切」、「ほぼ適切」との回答が90%以上あるものの、各課程で少数が不適切、またはわからないとしている。『学校における看護教育の特色は明確である』については、75%が「適切」、「ほぼ適切」と答えている一方、3年課程で46.2%と高率で不適切としていた。『教育理念・教育目的・育成人材像・特色などは、学生・保護者・保証人に周知している』については、約60%が適切としていたが、保証人会を開催していない助産学科で50%、保証人会を開催しているものの3年課程で約62%と高率で不適切としていた。同じ傾向は、『各課程の教育目標・育成人材像は、学生・保護者・保証人に周知している』にもみられた。</p> <p>3年課程においてまずは、3年課程の看護教育の特色を教員が周知理解することが必須である。それをもとに教育目的や目標を明確にし、どのような人材を育成していきたいのか、教員間で意思疎通を図る必要がある。助産学科においては、保証人会また</p>	<p>・周知について、教育・育成実践の中で事象など管理者が意識して結び付けていくのが効果的と思われる。</p>

はそれに代わるものを実施することで、助産学科が
目指している教育や人材育成について発信する必
要がある。学生には今後も継続した入学時の学校ガ
イダンスや指導等で周知するとともに、そのような
機会にはできるだけ当該課程の教員が同席し、学生
や主任、一部の教員だけが知っているということが
ないように共通理解を深めていくことが必要であ
ると考える。

II 組織運営

(1) 学校運営



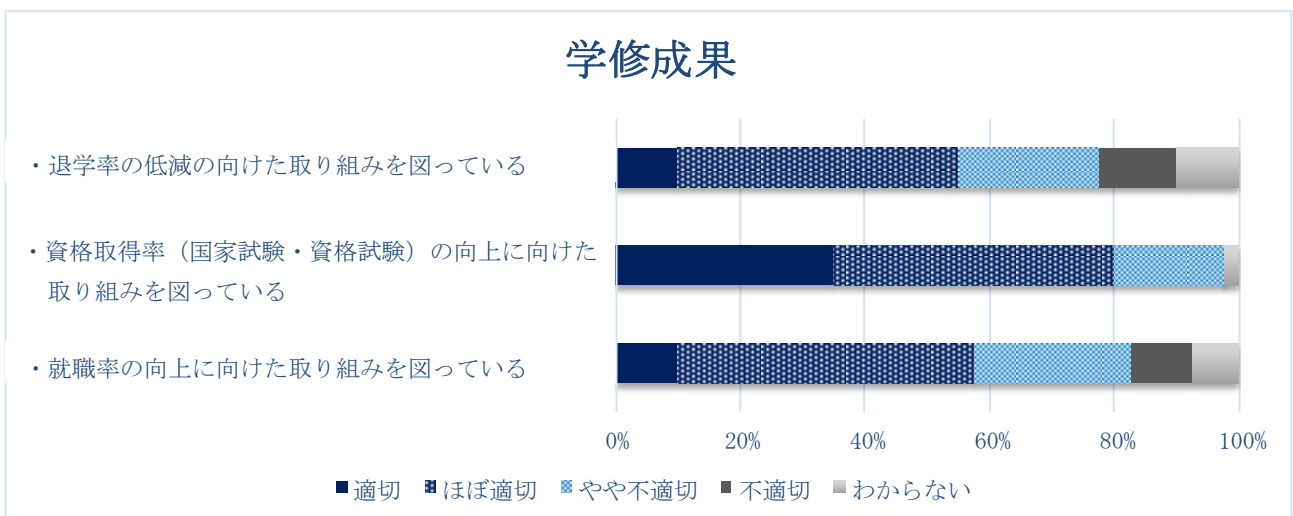
自己評価	外部評価
『情報システム化（キャンパスアベニュー）等による業務の効率化を図っている』は約 75%が「適切」・「ほぼ適切」の回答。キャンパスアベニューを活用できるかどうかで評価は変わる。キャンパスアベニューを利用する機会や権限に規制もあり、操作法や利用方法についても教員間の共通理解が必要である。『教育活動に関する情報公開を、学生・保護者・保証人に行っている』『学校運営会議・教務会議等を	<ul style="list-style-type: none"> ・問題なし ・ホームページは良くできていると思うが、もう少しタイムリーに更新されると、遠方の方々にも伝わると思われる。 ・もう少し外部からの意見を取り入れるという面で、外部評価委員等を活用しアンケートの実

定期的に開催している』は 80%以上が「適切」「ほぼ適切」と回答しており、会議等で教育活動内容を共有したり、教育目的に沿った運営事業計画の報告を受け、計画的に運営できていると思われる。しかし、教育活動についての情報公開は今年度は不十分であったこともありホームページで教育活動の実際を公開していく。

『運営組織は、学則等において明確に示している』『教育目的にそった運営方針のもとに事業計画を明確化して運営している』も 80%以上が「適切」「ほぼ適切」と回答し理解を示している。しかし『教務及び事務の組織を整備している』は 70%以上が「適切」と評価しているが、25%が「やや不適切」「不適切」「わからない」と評価しているため今後、効果的な学校運営をめざし、業務分担の整備が必要である。

施など検討しても良いのではないか。

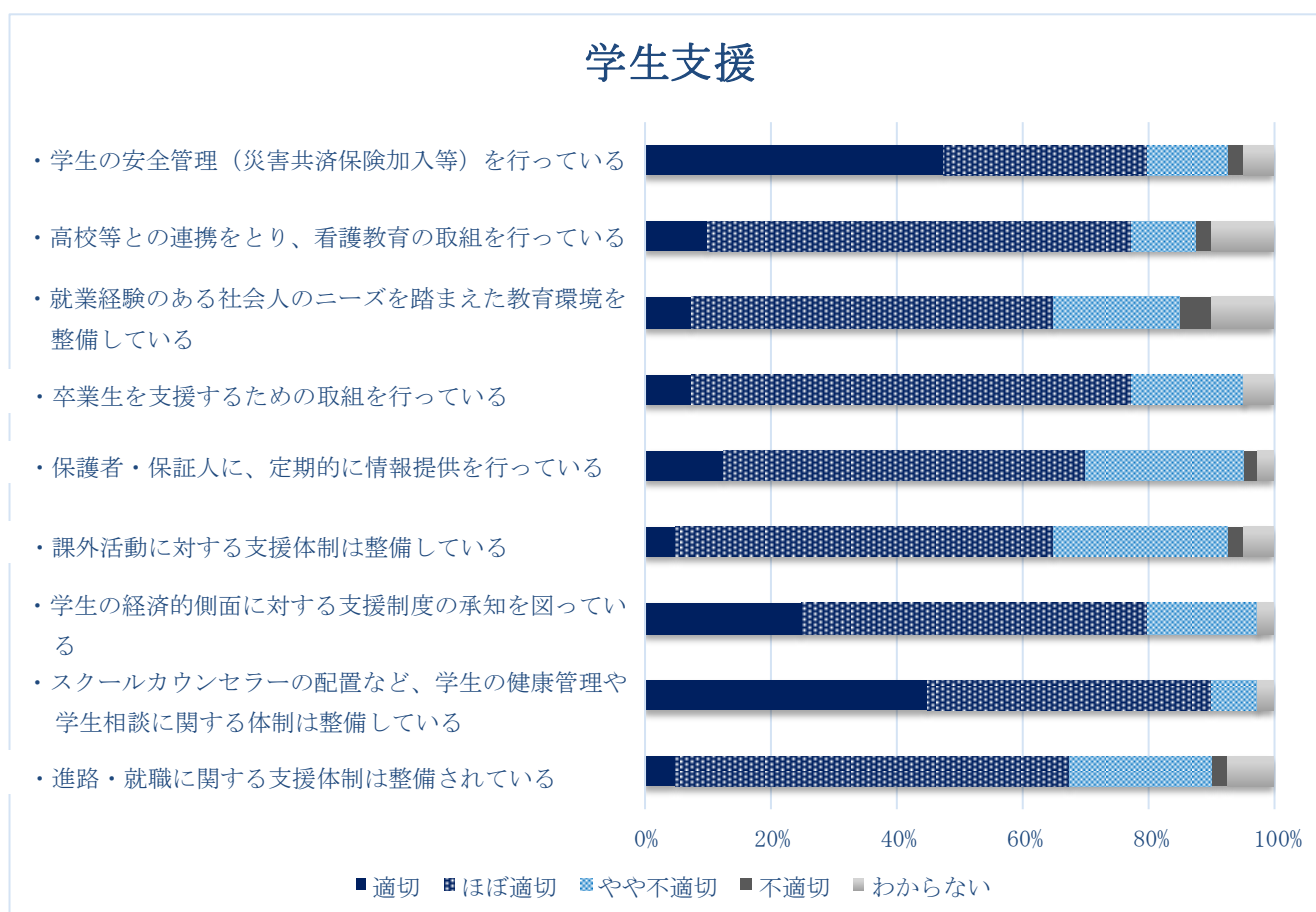
(2) 学修成果



自己評価	外部評価
<p>社会情勢から、主体的に職業選択をせずに入学者や、入学後に生活スタイルの変容及び専門的な学習についていけないなどの理由から休学や退学も見受けられる。早期にスクールカウンセラーの対応をして精神面のサポートに努めている。准看護科においては経済面や家族役割りへのアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験対策は奏功しているようで良かった。 ・ 平成 28 年の国家試験の合格率は全国平均より高く、学生の努力と教員の評価に繋がるものとする。

<p>も含め進学率向上へ尽力している。全学科が資格取得に関して学内教員による補講や授業後のサポートを実施している。今年度3年課程・2年課程は、特に外部講師による国家試験対策の強化を図り、助産学科については教員が国家試験に向けて問題を作成して実施することや日々の小テストで学習不足を補うなど確実な資格取得に向けた取り組みを行った。その結果、全国平均を上回る資格取得率となった。就職率においても実習施設にも恵まれ概ね全ての学生が就職をしている。今後もこの現状を維持していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間で国家試験合格に導くための努力を惜しまず、ご指導いただいていることに敬服します。 ・進路変更や体調不良、授業料支払困難など、解決は難しいと思う。
---	---

(3) 学生支援



自己評価	外部評価
<p>スクールカウンセラーの配置や、経済的側面に対する支援制度の周知、災害共済保険の加入についてはいずれも80~90%が「適切」「ほぼ適切」と回答している。スクールカウンセリングについては、入学時のオリエンテーションでの案内や、開室状況の掲示により、周知されてきた成果といえる。利用状況も年々増加し、教員とカウンセラーとの連携が図れてきたものといえ、学生の精神的サポートが適時行われてきていると評価できる。</p> <p>入学直後に、修学資金の利用を考えている学生全員に対して一斉に説明会を行うことで、制度の周知が図れ、学生全員に平等に制度利用の機会が得られていると評価できる。しかし、希望者数が募集人数を超えるため、採用枠の拡大を期待する一方、不採用となった学生への支援がさらに必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生は奨学金の申請・給付時にはきちんと対応するが、卒業後実際に就職すると家族の協力を得られず「夜勤、日曜勤務は無理」という申し出も多い。可能な限り調整したいが、一社会人として「仕事をする」ことに対する意識はどうか。 職員の横の連携方法として、担任以外も学生の状況がわかるよう、クラス毎のホワイトボードを設置してはどうか。職員が一体的に学生の動向等を見られる。また、各クラスの動向も広く職

卒業生を支援する取り組みについては約 78%が「適切」「ほぼ適切」と回答している。これは、カムバックスクールや、在校生の技術演習でボランティア参加した卒業生との交流、また臨地実習施設での接点を介して近況把握をしている。

保護者・保証人への情報提供については、「適切」「ほぼ適切」が 70%にとどまっている。これは、助産科および2年課程の学生は資格を持った成人であるため、3年課程や准看護科での保護者・保証人との関係性との違いによるものと考えられる。

員に伝わる方法があると良いと思われる。

カムバックスクール

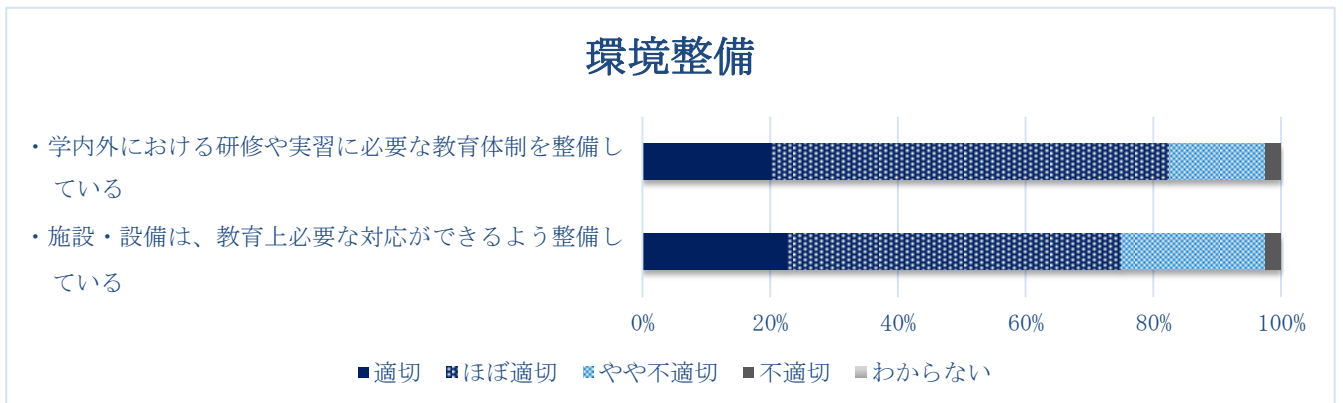
平成 27 年 8 月 5 日（水）13 時 30 分～15 時

講演テーマ：「認定看護師への道－認知症看護について－」

講師：辰巳弥生 先生 宇治おうばく病院 認知症看護認定看護師

(4) 教育環境

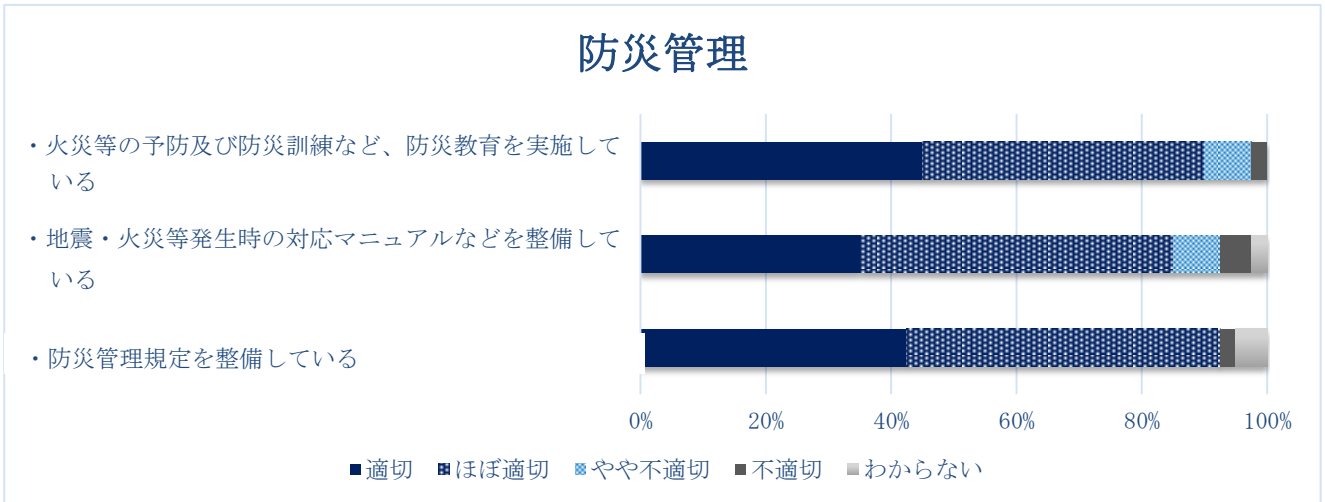
ア 環境設備



自己評価	外部評価
<p>学内外における研修や実習に必要な教育体制についてはほぼ適切と答えている。施設・整備は教育上必要な対応ができるよう整備しているかについては20%が「やや不適切」と答えている。これは、教材や備品の消耗、老朽化によるものと考えられる。常に適切に使用できる整備や共有して使う教室や資機材についても定期的なメンテナンスを実施することが必要である。また、実習室の教材についても今の医療現場と乖離することなく演習ができるように教材の精選が重要となり、学内での看護基礎教</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の開室時間を1時間延長（閉室：17時→18時）されたが、1冊探すのが精いっぱいの様子で、また、学習する場所の提供も希望している。図書室、自習室の開放時間が延びると良いと思われる。 ・上記に関して、今後学生の要望を募って考慮されると良い。

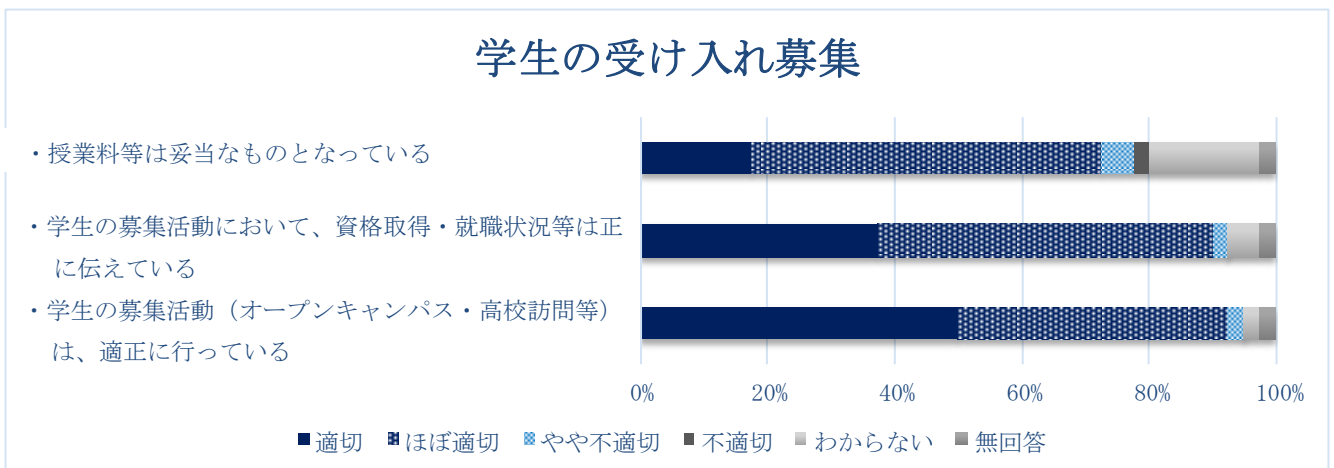
育をどのように進めていくのか各課程を通して考えていくことが課題ではないかと考える。またエントラスのソファールを利用して指導等するためには周囲との遮断が必要だがこれがないことやLL教室の机が学習に不適切であることからこのような結果となったと考える。

イ 防災管理



自己評価	外部評価
<p>年に一度防災訓練を行うことで、教員・学生ともに防災管理の実際を周知できていることにより、防災管理については全員が「適切」「ほぼ適切」としている。しかし、いつ、どのような災害が起こるかわからない中、定期的に訓練を行うなど他人事とならないような意識づけが必要である。</p>	

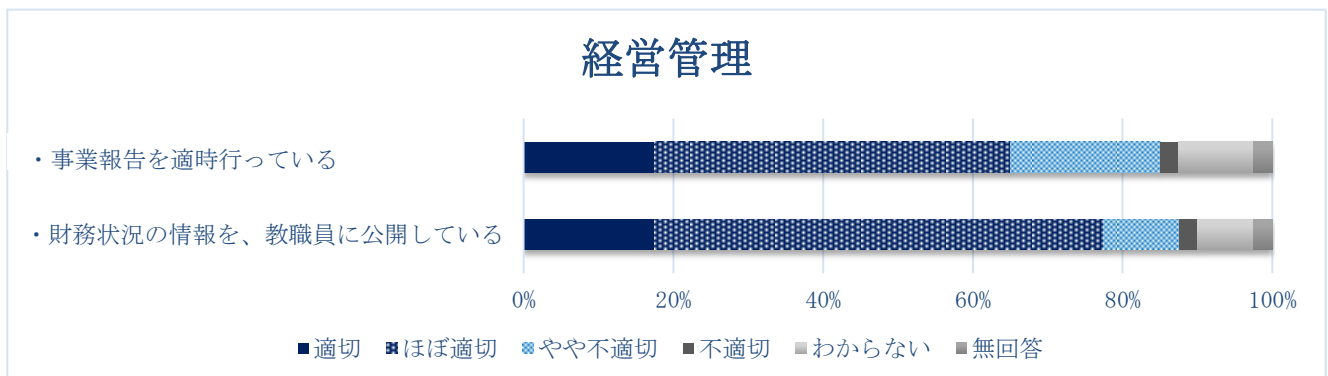
(5) 学生受け入れ募集



自己評価	外部評価
<p>年間4回のオープンキャンパス実施による本校の施設設備の紹介や案内に携わる在校生及び教員の対応が学生募集に奏功している。またホームページによる広報活動も同様に効果的となっている。</p> <p>教育顧問による高校訪問や教育成果を広く情報公開し外部に向けて准看護師の進学促進を推進すること、職業実践専門課程としての魅力を伝えることや助産学科への進学を含め今後も尽力していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、学校訪問等行われており問題ない。 ・学校訪問で、貴校に入学した学校卒業生のパネルをいただき、高校生に先輩が活躍している様子を見せることが出来て良かった。

(6) 経営管理

ア 財務



自己評価	外部評価
<p>事業報告や教員への財務状況の情報公開については、合同会議や「京都医報」などの回覧により適時行われており、『事業報告を適時行っている』『財務状況</p>	

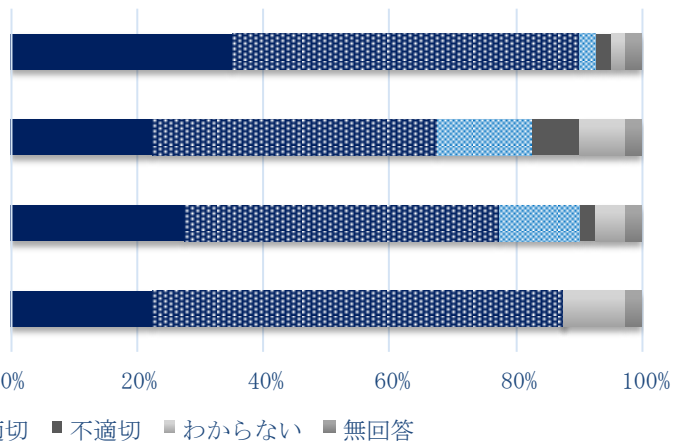
の情報を、教職員に公開している』については「適切」「ほぼ適切」が60%以上で全学科とも差異はない。しかし、事業報告については、40%弱が「やや不適切」、「不適切」、「わからない」、「無回答」としており、教員全員が認識しているわけではない。

財務状況についても同様に、情報はあっても理解ができない部分もあり、どこまで周知すべきか明確にし、もっとわかりやすい説明が必要である。また、教員も個々に関心を持ち自ら理解が深められるよう努力と意識づけが必要である。

イ 法令遵守

法令等の遵守

- ・学校の自己点検・自己評価を実施し、その結果を公開している
- ・教職員に対して自己目標・自己評価の実施及び問題点改善に努めている
- ・個人情報に関し、その保護のための教育対策を行っている
- ・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営をしている



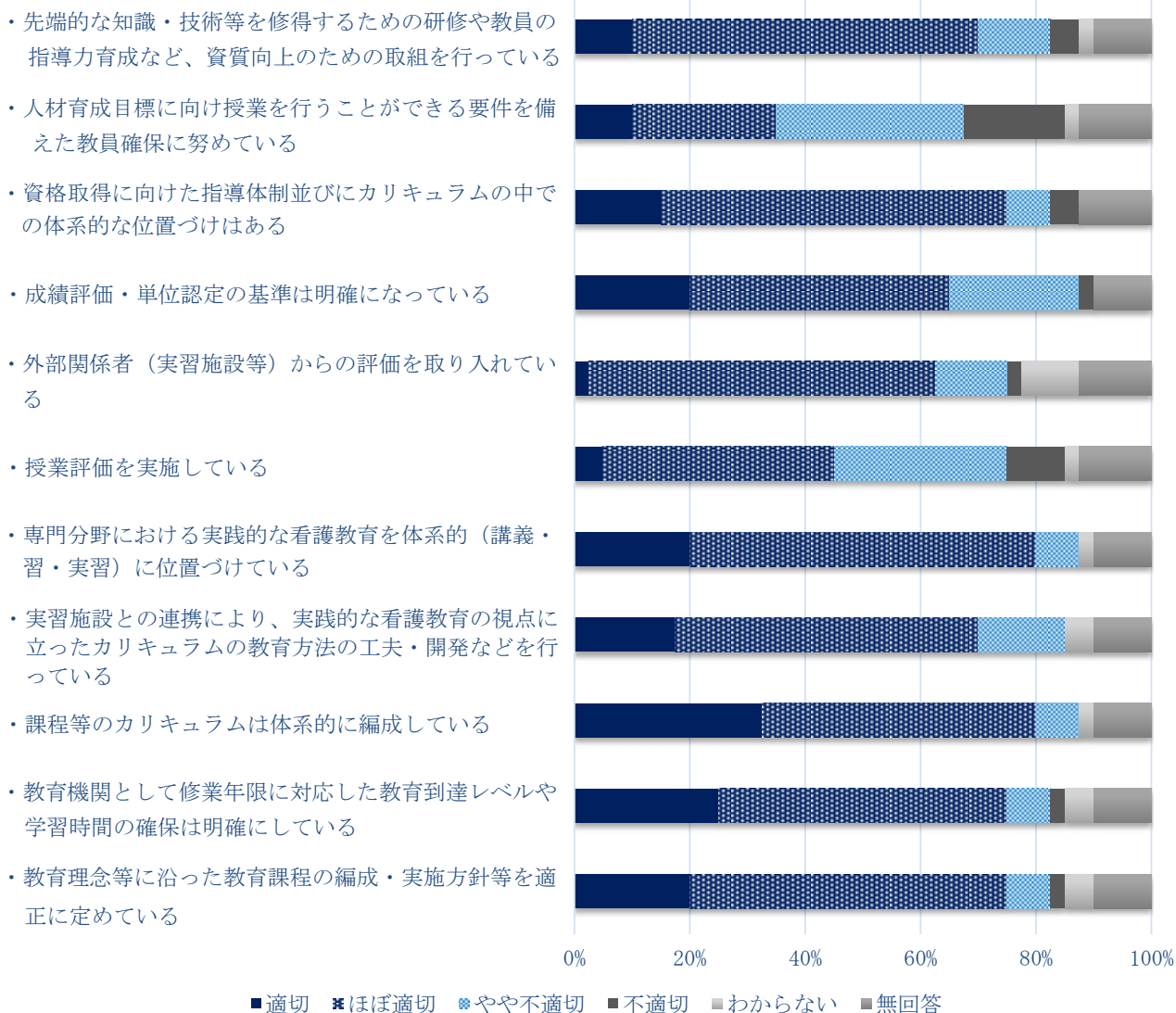
自己評価	外部評価
<p>学校の自己点検・自己評価については、結果の公開は定着し、認識はできている。「わからない」、「無回答」は、入職したばかりの教員が認識していないためと思われる。自己点検・自己評価の結果の公開はできているが、問題の改善策については努力しようとしているものの具体的に解決策が出せていないところもあり、それぞれの課題を明確にする必要がある。</p> <p>個人情報保護に関しては、教育の意識も高く日々の授業やオリエンテーションで繰り返し行っているため高評価となっている。今後も学生の認識を確認し十分な指導を継続していくことが必要である。</p>	

<p>法令の遵守についても高評価であるが、「わからない」との回答が 10%あり、新人教員や教員養成研修未受講の教員も法令や設置基準等を理解し、関心ももてるように説明や情報交換、研修等を学内でも行う必要がある。</p>	
--	--

Ⅲ. 教育活動

(1) 教育推進活動

教育推進活動



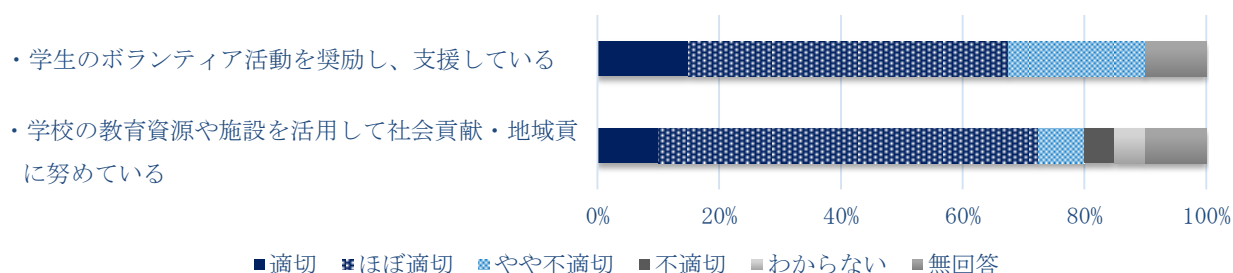
自己評価	外部評価
<p>各課程のカリキュラム編成や資格取得にむけた指導体制、成績評価・単位認定の基準は明確になっているの項目は約70%が「適切」「ほぼ適切」となっている。また准看護科では100%近くが「適切」「ほぼ適切」と回答しており、教育理念、教育目標から授業、演習、実習が構成されており、それにしたがって教育活動を行っている結果ではないかと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修参加推奨とキャリアアップシステムが構築され、実践されている為、問題ない。 ・臨床現場のように直接患者様の反応より、学生たちの免許取得後の活動報告(様子)など、教員モチベーションに繋がる仕掛けなど行ってみたいかどうか。

教員の資質向上の取り組みに関しては、新人研修、新任研修・中堅研修や各教員が専門領域などの研修に参加する機会もあり、合同会議での報告や伝達講習で研修内容を共有することができている。しかし研修の日程などは多忙な業務の中での参加であるため調整は必要不可欠である。

『人材育成目標に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員確保に努めている』では各学科でも、「不適切」「やや不適切」「無回答」「わからない」が65%である。また「授業評価を実施している」でも、65%が「不適切」「やや不適切」との回答からも、授業評価を行わないことで、振り返る機会を逃していたり、多様化する学生との関わりの中で難しいと感じたり、悩むことも多くあるためこのような結果になったのではないかと考えられる。毎年この項目は不適切、やや不適切が半数を超えていることから、適切な時期に授業評価を行うことや、実習においても教員間だけでなく実習指導者との連携も図りながら、教員自身も含め学生の成長に関わるよう自己研鑽を深めていく必要がある。また授業や、実習での関わりの中なかで、何に難しさを感じているのか表出できるよう配慮も必要ではないかと考える。

IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流

社会貢献・地域貢献



自己評価	外部評価
<p>教員は、学生部で立ち当番などの役割運営の状況把握や指導、ボランティア活動の参加を行っていること、学校祭でのバザーや地域の方々の参加を毎年受けていることを認識している。毎年、研修の機会を提供し、地域だけではなく知識向上のための社会貢献の一端を担っており、教員も研修に参加していることから社会貢献や地域貢献については、できていると認識している。</p>	<p>・近隣への活動を継続されており、問題ない。</p>

洛東高校健康福祉コース 実習受け入れ

2年生→准看護科 2回

3年生→2年課程 2回

洛東高校 性教育 助産学科 1回

【講師派遣】

実習指導者（看護師）講習会 平成27年10月～12月	看護論	奥山幸子
	2年課程の教育制度	迎千香子
	学生の到達度の理解	迎千香子
	母性看護学臨地実習	
	指導の展開	秋山寛子
	実習指導の実際演習	淵見美佐江
乙訓高校 平成27年11月 スポーツ健康科学科1・2年生 「看護学とは」		奥山幸子

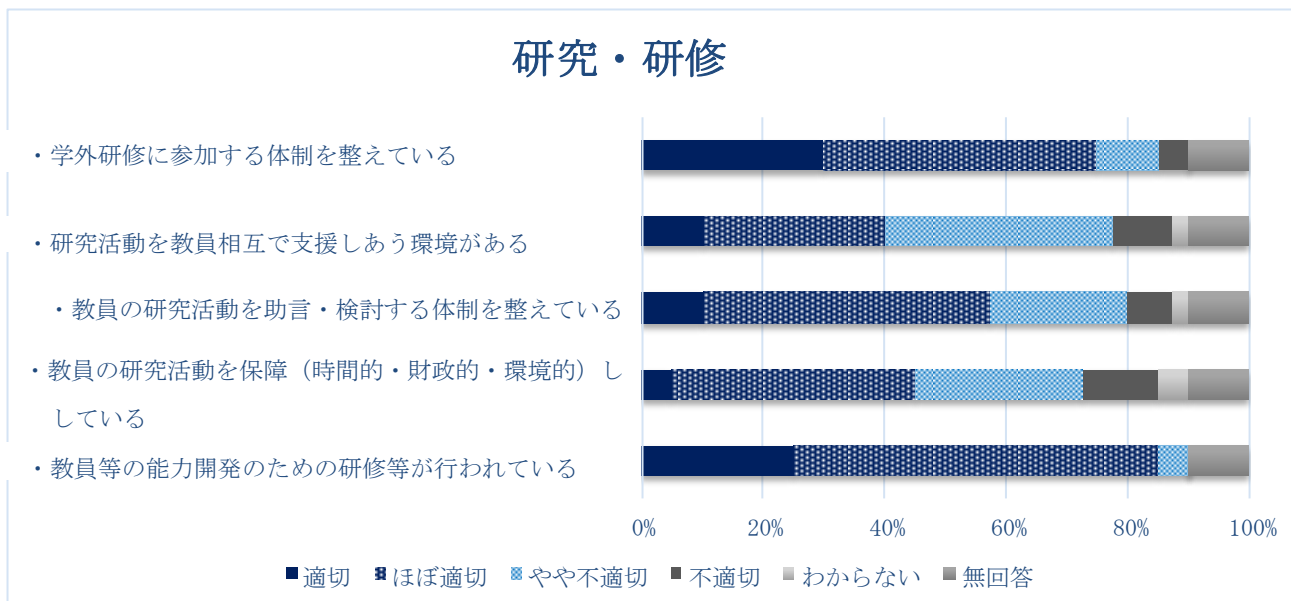
【シンポジウム】

近畿母乳の会 第7回 近畿母乳育児フォーラム	
「お母さんと赤ちゃんの力を信じること」講演	秋山寛子
日本助産学会 第30回日本助産学会学術集会	
「妊娠出産の可能性と限界への挑戦」講演	秋山寛子

【学会/職能関係】

京都母性衛生学会 副編集委員長		秋山寛子
京都府助産師会教育委員		秋山寛子
京都府看護協会 推薦委員委員長	平成 27 年 6 月～	橋戸好美
京都府看護協会継続研修運営委員	平成 27 年 3 月～28 年 3 月 31 日	奥山幸子
京都府看護協会准看護師制度特別委員会	平成 27 年 10 月 1 日～	奥山幸子

V. 研究・研修



自己評価	外部評価
<p>1 人年に 1 回、学外研修に参加する体制はあるが、校外研修に参加する環境調整については「不適切」との回答が 50%あった。業務調整ができていなかったり、行きたい内容の研修会に希望者が複数名重複した時の調整ができにくいことが考えられる。また、研究活動は長年続いているが、研究活動を教員相互で支え合うこと、研究活動を助言・検討する体制を整えていることについて、やや不適切と認識している教員がいた。教員は教育・研究が使命であると理解はしていると考えられるが、各教員の業務調整が難しく参加度や研究に充てる時間がうまくいかない場合があるのではないかと考える。長年の課題ではあると考えられる。</p>	<p>・研究や研修への時間・環境への配慮は出来るところから考慮していったらいいと思われる。</p>

教員研修一覧

【学校内】

- 第1回研修会 「臨床との連携をとりながら、効果的な実習指導をめざして
～『臨床現場』と『基礎教育』のギャップを埋める」
講師：原田久子先生
- 第2回研修会 「意欲的な学びに向かう授業づくりへの工夫」
講師：野津有司先生

- 新人教員研修① 4月1日～6月17日 3名
新人教員研修② 8月4日（火）12名
研究授業 27年7月～28年3月 7名
公開授業 27年4月～28年3月 3名
シンポジウム 12月25日（金）7演題
研究発表 3月24日（木）8演題
中期研修報告会 12月25日（金）看護教員継続研修（中堅期） 4名
中期研修報告会 3月24日（木）看護教員継続研修（新任期） 6名
長期研修報告会 3月24日（木）大阪府専任教員養成講習会 3名

【学校外】

1. 学会発表

日本看護学校協議会学会（大阪）

「A校助産師学生がめざす助産師像」

守屋嘉奈子・増田よし美・橋戸好美・秋山寛子

「皮膚モデルを用いた技術を実施した学生の思いについて

～静脈留置針固定における技術を通して～」

岡田弘美・奥山幸子

日本看護学会：ヘルスプロモーション（富山）

「浮腫を再現した皮膚モデルの効果について～手浴の援助技術を通して～」

藤田光恵・岡田弘美・桑田佳子・山口知栄子・奥山幸子

日本精神科看護学学術集会専門Ⅱ

「精神看護学実習を終えての学び 実習目標の達成度と今後の課題による分析」

迎千香子・橋本登喜子・殿川賢太郎

2. 学会・研修会等参加

日本看護学校協議会教務主任養成講習会（大阪）1名

大阪府専任教員養成講習会（大阪）3名

日本看護倫理学会第8年次大会（神戸）1名
日本看護学校協議会（大阪）4名
日本看護学会学術集会：看護教育（奈良）1名
日本看護教育学会第25回学術集会（徳島）1名
日本精神科看護学学術集会専門Ⅱ（山梨）3名
日本看護学会学術集会：ヘルスプロモーション（富山）2名
第3回看護理工学会学術集会（京都）1名

日本看護協会研修（神戸）1名
京都府看護協会
 中期研修：看護教員継続研修（新任期）7名
 中期研修：看護教員継続研修（中堅期）4名
 短期研修 24名
大阪府看護協会 フォローアップ研修 3名
京都橘大学リカレント学習講座 5名
京都府看護学校連絡協議会 1名
日総研研修（大阪）1名
e-NUS 看護セミナー（大阪）2名
メディカ出版（大阪）3名
チャイルドトラスト（島岡医院）2名

3. 論文

秋山寛子、橋戸よし美、飯場 希予. 小学校教諭の性教育実施に対する思い. 京都母性衛生学会誌第24巻1号
迎千香子、橋本登喜子、殿川賢太郎 精神看護学実習を終えての学び 実習目標の達成度と今後の課題による分析. 日本精神科看護学術集会誌 58(3): 254 -257 2015